

前年度の改善方策について実行した改善結果

改善策① 生活科・総合的な学習の時間を中心にした達成感が高まる学習

生活科・総合的な学習の時間では、「あれをやりたい」「もっとこうしたい」という子どもの思いを元に学習を作っていくが、次年度はさらに子ども主体の活動を設定し、探究のしがいのあるもの、自己の生き方につながる学習活動、野沢・下馬地域の特色や人材を生かせる学習活動を行っていく。

⇒「地域に根ざした学習を進め、児童の達成感が高まる工夫をしてほしい」という提言を受け、子どもの「やりたい」「もっとこうしたい」という思いを起点とした主体的な学びと、野沢・下馬地域の特色ある人材や場所を生かした学習活動、探究活動を推進した。

＜各学年における地域・社会との交流の深化＞

1年（生活科）学区域内の保育園児、幼稚園児との交流を行い、年下の子を思いやる気持ちを育んだ。

2年（生活科）地域の人々との直接的な触れ合いを通し、自分たちの生活を支える人々への関心を深めた。

3年（総合）社会科の自分たちの住む地域の学習と関連させながら「野沢・下馬地区のお宝探し」を実施し、地域の施設や文化の魅力を再発見した。

4年（総合）デフリンピックの観戦、パラリンピックを踏まえ、年齢や障がいの有無に関わらず「誰でも取り組めるスポーツ」の企画・提案を行い、地域の方と実際に競技を行うことで、共生社会のあり方を考えた。

5年（総合）各クラスの特性や課題意識に応じたテーマを設定し、多様な形態で地域との交流を展開した。

6年（総合）自分たちで「会社組織」を立ち上げ、地域住民や専門家と連携したプロジェクトを運営することで、社会形成能力やキャリア意識を大きく向上させた。また、売り上げを通して地域に還元できることを考え、地域のスーパーと連携し、来店した方との交流も深めた。

○子どもたちが自ら課題を設定し、地域社会に働きかけるプロセスを通じて、深い達成感と「未来をつくりだす力」を育むことができた。令和7年度の学校関係者評価でも「子ども意欲を大切にしている」の項目は、学年が上がるほど高くなり、5、6年生では80%ほどになっていることから、まずは児童の思いを大切にした学習活動が展開されていることが子どもたちにも伝わっていることが分かった。

改善策② 体を動かす取組の促進

令和6年度、運動委員会児童が、休み時間、中丸小の子どもたちが校庭で遊べる遊具を企画、実現できた。卒業した6年生も在校生へのプレゼントにストラックアウト用のゴールを贈ってくれた。このように子どもたちが自ら体を動かすことの大切さを伝えたところ、校庭で遊ぶ児童が増えた。次年度も体育の学習での運動量の確保はもちろん、学習以外でも運動に親しむ機会を増やしていく。

⇒前年度に引き続き、運動会のほかに秋に「中丸スポーツ大会」を実施し、低、中、高学年で運動種目に取り組んだ。学年を越えて同じ運動に取り組む、勝敗を競い合う中で運動することの楽しさや運動を通しての喜びを感じることができた。

また、運動委員会が中心となり、休み時間の遊具活用企画や校庭での遊びの工夫を児童主体で行った。休み時間は、校庭・屋上・体育館の運動施設全部を開放し、全学年が身体を動かす遊びができるように割り振りを変更した。決して広くはない学校施設の運動環境を効果的に活用することで日常的な運動量を確保した。

さらに、「体育朝会」を通して体育の学習の中だけでなく、日常的に行うことができる運動や遊びを紹介し、休み時間などに取り組めるようにもした。

子どもたちが自ら運動の必要性を感じ、校庭で元気に遊ぶ姿が定着し、体力向上への意識が高まった。

改善策③ 学校参加を通して地域をつくる

令和6年度、保護者の方や地域の方を巻き込む形での教育活動、学校への参加を増やしてきた。個々の子どもたちの成長を見るだけでなく、クラスや学年の集団としての成長を見ていただき、「中丸小でよかった」と安心していただけることが多かった。

次年度はさらに、保護者の方や地域の方が主体的に、中丸小学校の教育活動に参加することで、よりよい中丸小、よりよい野沢・下馬地域を作っていくという機運を醸成する。

⇒学校・家庭・地域の三者がウェルビーイングを実感できる教育活動を展開した。

開かれた教育活動の推進：秋のスポーツ大会や総合の学習を通じた地域交流会など、それぞれの児童と地域・保護者が一堂に会する場を継続・発展させた。

パートナーシップの構築：保護者や地域住民が「参観者」でなく「教育活動のパートナー」として授業や学習活動に関わる機会を創出した。改善策①でも示したように保護者、地域と連携した学習活動を展開したことで、地域の中の学校という意識を高くもってもらうことができた。令和7年度の学校関係者評価でも地域の方の回答で「地域の人や施設を教育活動に生かしている。」や「中丸小学校の教育活動などに協力していきたい。」の項目は肯定的回答が非常に高くなっている。「中丸小でよかった」という安心感を醸成し、「よりよい地域を共につくる」という機運を大きく高めることができた。

次年度（令和8年度）も引き続き「大人も子どもも元気でウェルビーイングな中丸小」を掲げ、子どもたちが主体的に「自分で自分を育てる力」を伸ばせるよう取り組んでいく。また、PTAを中心に、より保護者・地域との連携を深めながら教育活動を進めていく。